

ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局
VOL 48 平成 19 年 1 月



オンリーワンのナンバーワンを目指して

平成 19 年を迎えました。真誠会医院開設以来 19 年目を迎え、20 周年目前の一年前になります。

そして聖路加国際病院理事長 日野原重明先生が医療法人真誠会名誉理事長にご就任いただいてから 9 年になります。日野原先生は平成 17 年 11 月文化勲章を受章され、自他共に認めるオンリーワンのナンバーワンになられました。そして先生は 95 歳の本年でもオンリーワンのナンバーワンの道を走り続けておられます。

日野原先生から約 10 年間教えていただいた私たち真誠会のスタッフが、それなりのレベルでオンリーワンのナンバーワンを目指さないで日野原先生にどのように言い訳ができるでしょうか。挑戦しても出来ないかもしれません。でもそれがオンリーワンのナンバーワンを目指さない理由にはなりません。それどころか私は日野原先生に名誉理事長にご就任いただいたときからオンリーワンのナンバーワンを目指していたのでした。しかしながら当時はそのようなことを口に出すことがはばかれるほど真誠会はまだまだ力不足でした。

しかし真誠会が開設して本年 9 月で 19 周年、そして来年は 20 周年となる今となってみれば、オンリーワンのナンバーワンを目指すことを宣言するだけの気持ちと、それを宣言したときに世間から笑われないだけの実績、基礎が出来たとっております。大きな目標を実現するために大切なことは、その目標を世間に宣言する勇気だと思えます。

今こそ私たちは日野原重明先生の理念を柱として地域医療福祉の道でオンリーワンのナンバーワンという目標に向かって走りつづけたいと思えます。そしてその実現のために大切なことそれは平成 18 年の新年の挨拶で述べたように、一に教育、二に教育、三に教育、四に教育……そして永続的に教育を行うことだと思えます。



医療法人 真誠会
社会福祉法人 真誠会
理事長 小田 貢



「認知症」の時代から 「認知症ケア」の時代へ

バリデーション研究会開催報告

平成 18 年 11 月 5 日(日) 米子ゆうとびあにて、篠崎人理先生(日本バリデーション研究会代表、きのこエスポール病院本部長)ほか 2 名の講師を迎えてバリデーションの勉強会を開催しました。

バリデーションとは、コミュニケーションが取りにくい重症の認知症の方ともコミュニケーションを取ることができるテクニック法で、アメリカ人のソーシャルワーカー博士 ナオミ・フェイルさんによって開発されたもので、今では世界でかなり広く知られております。ですが、日本ではまだまだ一般的に日常的な現場で使われるほど広く普及しているわけではありません。

そこで真誠会では篠崎先生をお招きして勉強会を企画しました。せっかくの貴重な機会でしたので、鳥取大学医学部保健学科教授 浦上克哉先生のご理解をいただき、山陰認知症ケア研究会の支援を得て公開講座としました。当日は予想外に院外からたくさんの参加者があり実際には当日 180 人にも上りました。

講義ではバリデーションに関する基礎理論の講義からバリデーションの実際と参加者によるロールプレイがあり、とてもわかりやすい勉強会でした。

当日のアンケートでは殆どのみなさんが、今回のバリデーションの勉強会を高く評価され、また、バリデーションの継続的勉強会の開催を望まれていることがわかりました。

今後はどのような形態でこの勉強会を継続するかは山陰認知症ケア研究会でご検討いただくことにしたいと思います。



【参考図書】



認知症の人との
超コミュニケーション法
バリデーション

出版社：筒井書房
価格：2,500 円(税別)



ケースワーカーが語る
バリデーション

弱さを力に変える
コミュニケーション法

出版社：筒井書房
価格：1,800 円(税別)

第 2 回 弓浜助け合いネットワーク シンポジウム開催される

平成 18 年 12 月 3 日(日) 弓浜ホスピタウンで第 2 回弓浜助け合いネットワークシンポジウムが米子市美保、弓ヶ浜地域包括支援センター主催で開催されました。参加者は約 200 名でした。



たくさんの方々が参加して下さいました

第 1 回「弓浜助け合いネットワークシンポジウム」は、平成 18 年 2 月 5 日(日)に開催されました。それは平成 18 年 4 月の介護予防、包括支援センターの始まる約 2 ヶ月前のことでした。そのときには「助け合いネットワークシンポジウム」に地元の方は包括支援センターに関する知識も認識もあまりもっておられませんでした。認知症に関する関心も少なかったと思われます。

それから十ヶ月後に開催された第 2 回目のシンポジウムでは、包括支援センターの活動は地域の方々にも十分に理解され、包括支援センターが地域に溶け込んでいることがはっきりと認識できました。

そして過去の十ヶ月間に地域のいきいきサロンも 3 倍に増えました。認知症に関する知識も非常に高くなり、介護予防の重要性も認識されてきました。

毎日地味に地域での啓発活動をすれば、十ヶ月間で地域の方々の意識がこれだけ変わってくることや認識が深まり、積極的に取り組まれることなどがわかりました。

このような可能性をみれば、これからさらに次のステップにつながる地域活動をおこない、更なる「助け合いによる安心して住めるまちづくり」が可能であることがわかりました。



物忘れタッチパネルの体験コーナー



ボランティアの皆さま
ご協力ありがとうございました!

当日のプログラム

- 13:30 1. 開会
- 2. 主催者挨拶
- 3. 来賓挨拶
- 4. 来賓紹介
- 13:40 ~ 14:40
- 5. 意見発表
 - ・ 認知症対応相談窓口における地域包括支援センターの役割
 - …米子市弓ヶ浜地域包括支援センター 安田 博子
 - ・ 不明者捜索に役立った真誠会緊急一斉メール
 - …米子市弓ヶ浜地域包括支援センター 小坂 一
 - ・ 各校区における認知症に対する取り組み(崎津、和田、大笹津、富益、夜見、彦名の各地域より)
- 14:40 ~ 14:50 休憩
- 14:50 ~ 15:35
- 6. 講演「認知症になっても住めるまちづくり」
- …社会福祉法人真誠会
- NPO 法人がいなネット 理事長 小田 貞氏
- 15:35 7. フィナーレ
- 16:00 8. 閉会

第 11 回ホスピタウン交流会 in 米子 Only1 の No.1 を目指して

平成 18 年 11 月 11 日 (土)、12 日 (日)、熊本ホスピタウン: にしくまもと病院、神戸真星病院の皆さんを迎えて、第 11 回ホスピタウン交流会が米子ホスピタウンで行われました。それに先立つ前日の 11 月 10 日には、にしくまもと病院から林先生とお二人のスタッフが来院され真誠会デイケアにて見学・研修をされました。

11 月 11 日午後から、にしくまもと病院 小西理事長、真星病院 大石院長先生、にしくまもと病院、真星病院のスタッフの皆様御一行は揃って弓浜ホスピタウン、小規模多機能センター、在宅福祉センター、米子ホスピタウンを見学していただきました。

4 時から、小田理事長が「認知症に対する新しいアプローチ—身体介護(フィジカルケア) から精神介護(スピリチュアルケア) へ—」というタイトルで約 2 時間の特別講演を行いました。タイトルは認知症に対するアプローチでしたが、実際には認知症だけではなく、緩和ケアそして一般の患者さんにとっても共通した真心のこもったケアの重要性について講義を行いました。

11 月 11 日の夜は全日空ホテルで懇親会が行われ、お互いの懇親を深めることが出来ました。懇親会から、但馬救命救急センターの倉橋先生も参加されました。フィナーレには、ゆうとぴあスタッフの有志による「ソーラン節」が元気よく披露されました。このソーラン節が終わるとアンコールがあり、続けて二回踊りました。その後も、またアンコールの声援があり、全員がエネルギーにソーラン節を踊りました。

そして最後は円陣を組んで手を握り合い、小田理事長の指揮で「夢をあきらめないで」を二回大合唱しました。そして小田理事長と小西理事長、大石先生、倉橋先生が歩いて全員と握手をして回り閉会となりました。

11 月 12 日は 9 時から弓浜ホスピタウンの 2000 年ホールでシンポジウムがありました。まず最初は大石院長先生、小西理事長先生、そして小田理事長の 3 人で「トップの決意」を発表がありました。小西理事長先生は静かな中にも情熱を込めて、にしくまもと病院の立替考案について話されました。

その後は、公立豊岡病院・但馬救命救急センターの倉橋先生をトップとして講演発表があり、真星病院から一題、にしくまもと病院、真誠会から二題の発表がありました。これらの発表も非常に充実したものでホスピタウン交流会も年を重ねるごとにレベルが上がっていることを示しておりました。

平成 19 年には神戸真星病院にて第 12 回ホスピタウン交流会が予定されており、今から楽しみです。



懇親会で一段と絆が深まりました



ホスピタウンの仲間たちです



平成 19 年開催地の神戸真星病院 大石院長へ
交流旗をバトンタッチ!!

日野原重明先生の講演決まる!

日野原重明先生(聖路加国際病院理事長・医療法人真誠会名誉理事長)が会長をしておられる「新老人の会」の鳥取支部では、平成 19 年 4 月 10 日(火)日野原重明先生の講演を開催することが決まりました。講演は鳥取県立倉吉未来中心で行います。

日野原先生の講演を実現するために、平成 19 年度のスケジュールをお伺いしたところ、(平成 18 年 12 月の時点で)空いている日は、4 月 10 日(火)と 12 月 4 日(火)のたった二日間でした。この計画の立案がもう少し遅かったら先生のスケジュールはいっぱいとなり、鳥取へは来ていただけなくなるころでした。しかもお聞きしたところによりますと、日野原先生のスケジュールは、本年は海外のご出張が多いということです。先生は 95 歳にしていますますお元気で活躍されておられます。



2007 年は 美しい職場を目指して!

謹んで新年のご挨拶をもうしあげます。私は、医療法人真誠会に勤めて4度目のお正月を迎えるわけですが、その間にも年々身長が短くなり、足腰も弱るのを自覚しながらも、医療を通じて弱い人を出来るだけ助けたいを生甲斐として頑張ってきたのも、日々皆様の支えがあってこそと感謝しております。



介護老人保健施設 ゆうとぴあ
施設長 佐藤 暢

日本の経済は、上向けになり、明るい歳を迎えられる方も多いのに、私を含め後期高齢者には、残念ながら明るい将来は見えてきません。長年にわたる国家財政の破綻から、改革の名のもとに年金、医療、介護と社会補償費は段々と減らされてきて、地方財政も圧迫され、その皺寄せがもろに高齢者を見舞っております。本来年金とか保険とは、将来のために積み立ててきた社会の約束事であると思っていたのに、実は若い世代の掛け金を当てにした自転車操業であったので、国は都合が悪くなると法律を変えて対処するので堪りません。福祉国家という言葉が聞かなくなってから長年立ちますが、昨今の政策は第二次大戦を苦戦して生き残った人々、敗戦後苦労を重ねて日本の復興に貢献した世代は、用済みで若い人の負担に成り過ぎるから早く死んだ方が良いと言いつつ続けられているように聞こえてなりません。人口構成が変わっても、障害者や老人を支える努力と工夫をしてこそ美しい国の政策と言えるのではないのでしょうか。今勝ち組の若い人も、将来は高齢者になり、高齢者や病人になると遂には自分のお金を自分で使って解決できない事態になることを考えれば、競争原理では誰も将来の安心は得られないので、世相は益々荒れて美しい日本には戻れそうにありません。

我々の職場は、老人医療と福祉の最前線に立っているながら兵糧攻めにあって日々苦戦を強いられている現状ですが、これを美しい職場にするにはどうしたらよいか? それには、インフラ整備が必要なのは当然ですが、各人が心と力を合わせて働ける職場にする以外に方法はないと思います。私の職責から言えば、判断の間違いは許されないの、それにはアヤフヤになりがちの記憶に頼らず、すべて記録を基に現場で判断するように努力致しますので、何卒ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

誰からも、そして気楽に 受けて頂ける真誠会検診

新年明けましておめでとうございます。今年も真誠会の一員として、皆様のお役に立てる様に頑張りたいと思います。早いもので、ここに赴任してもうす



真誠会セントラルクリニック
内科部長 梅木 健介

ぐ2年を迎えようとしています。セントラルクリニックでは、外来・入院患者様とは別に、検診・ドックの方も多く来院され、ここ2年間の受診者は毎年2~3割の増加があります。お蔭様で、昼休憩がだんだん短くなっております。検診に多く関わるにつれて、その難しさについていろいろと考えさせられることがあります。当たり前のことですが、検診を受ける時の動機というのは、症状を訴えて来院される患者様より漠然としていて乏しいものです。それゆえ、胃検診を勧める際に、「以前すごく苦しかったから」と検査を拒まれる方が多いのもまた事実です。一旦、恐怖心を体が覚えてしまうと、検診どころか症状があっても我慢される傾向があり、その間に病気がどんどん進行する結果となります。ここに来て、検診そのものの必要性と、検診を行う側の責任の重大性を強く感じます。検診だからこそ、決して辛く苦しいものになってはいけません。当院での胃検診では、内視鏡挿入はゆっくり丁寧に行い、嘔気が強ければ介助者が背中をさすり、恐怖感・不安感が強い方には、必要に応じて鎮静剤を投与します。また、検査前に緊張しておられる時には、言葉の麻酔で緊張をほぐしてから検査を始めます。当院で検診を受けられた方の勤めで、初めて検診を受けられる方も増え、私どもの努力が少しずつではありますが実を結んできているのを実感します。『誰からも、そして気楽に受けて頂ける真誠会検診』を目指して、スタッフ一同さらに努力していきたいと思ひます。本年も宜しくお願いいたします。



ケアハウスリバーサイド

「おかげさまで5周年」

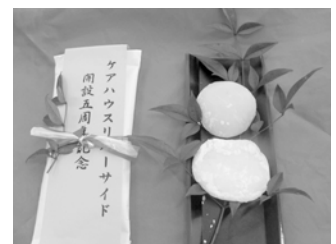
ケアハウス・リバーサイドもおかげさまで、平成18年12月1日をもって開設5周年を迎えることが出来ました。これもひとえに皆様の深い愛情とご理解、ご協力の賜物と感謝申し上げます。先日、この喜びを「紅白餅」に託して皆様にお届けいたしました。

リバーサイドでは、毎月行事を決め入居者の皆さまと一緒に楽しい時間を過ごしております。

冬きたりなば春遠からじ、さてこの冬はどんな楽しい事をいたしましょうか。



今年もみんなで元気に
過ごしましょう(^o^)/



ケアハウスリバーサイド
開設5周年記念の紅白餅

笑いは薬

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

先日、防府市に伝わる奇祭“笑い講”をテレビで見ましたが、腹を抱えて大笑いして一年の苦しみや悲しみ、憂さを笑い飛ばしていました。昔から“笑う門には福来る”と言われるように、笑いには色々な効用があることが科学的に証明されてきています。

1992年の国際ガン学会で笑いは制癌剤である、という学説も発表されています。慢性関節リュウマチ患者で痛みが軽減し、免疫学的検査値も改善。糖尿病患者では血糖値が低下。重症膠原病患者で短時間痛みが取れて良眠。実験でもネズミでナチュラルキラー細胞が活性化し発癌率が著明に減少したことが報告されています。

とにかく笑うことはストレスの解消になるとともに、顔の表情筋を働かせて血行をよくし、シワの防止になり美容効果にもつながります。

近頃は、高齢者や弱者を切り捨てるような医療、福祉の政策、嫌な事件や事故が続発しています。今年は、心から愉快地笑えるような年になってほしいと願っています。



介護老人保健施設
弓浜ゆうとぴあ
施設長 五明田 孝

ご近所同士で 助け合いを!

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

今年は暖冬との予報が出ておりますが、私の自宅近隣には屋敷内に西条柿の古木が何本もあり、昨年も収穫されずに真っ赤に熟して枝にぶら下がっており、私の出勤時には毎朝のように渡り鳥のつぐみがこれをついばみに来ました。つぐみの飛来が多いことは、予報どおりの暖冬となるのではないのでしょうか。

私は、30戸ほどの小さな農村集落に住んでいますが、93歳を筆頭に75歳以上の方が3人も1人暮らしです。また去年は独居のお年よりが2人も亡くなりあとに住む者もなく空家となっています。子たちは他の地で生活しており、日本の農村を縮図にしたような状況です。そして若者や子供は少なく、まさに身近なところで少子高齢化の世代構造を目の当たりにしています。

高齢者のみの世帯、特に一人暮らしの方に対しては、近所に住む者が常に見守り、助け合いながら生活していく必要性を痛感していますが、今でも近所とのつながりが保たれており、この意味では農村のすばらしさを実感しています。

都市に住む皆さんは近所との連帯感と云うか近所づきあいが希薄と云われていますが、隣近所のつながりを大切にしたいものです。

終りになりましたが、今年も皆様が健康で幸せでありますようにお祈り申し上げます。



介護福祉施設
ピースポート
施設長 藤本 昌弘

◆メタボリックシンドロームとは……

別名・死の四十奏と言われ、腸や肝臓など内臓の周囲に蓄積した脂肪、高脂血症や糖尿病、高血圧症など動脈硬化の危険因子が重なり合った状態のことを言います。

メタボリック
シンドローム
って
なあに？

60歳以上の男性の約50%以上がメタボリックシンドロームまたはその予備軍と言われています。メタボリックシンドロームの状態の人は動脈硬化が進行しやすく、心筋梗塞や脳梗塞、狭心症など突然死につながる病気にかかりやすいのです。

メタボリックシンドロームの原因である溜まった内臓脂肪を燃焼させるために、まず大切なのは「体を動かすこと!!」

おへその高さの腹囲が男性で85cm以上、女性で90cm以上の人は要注意です。

みなさん、『真誠会けんこう倶楽部』で運動し、普段から運動の習慣をつけ、内臓脂肪を燃やしましょう!

【1日の運動量のすすめ……】

- ・ウォーキング 20分
- ・軽い筋力トレーニング
- ・規則正しい生活リズム

☆栄養士からのアドバイス!

メタボリックシンドロームを予防するためには『適正なエネルギー量のバランスのとれた食事』をとる必要があります。

あなたは、間食に清涼飲料や缶コーヒーを、夜食にスナック菓子などを食べていませんか?

これらの習慣があると1日に必要なエネルギー量をオーバーしている上に、食物繊維やビタミン・ミネラル・カルシウムなどが不足している可能性があります。食物繊維の不足は血中のコレステロールを増加させ、ミネラルの不足は血中のナトリウムの排出を妨げて高血圧の要因ともなります。生活習慣病の予防のために、正しい食習慣を身につけましょう。

運動と並行して、食事内容も見直すと効果 up! ですよ (^o^)



辻田耳鼻咽喉科



辻田耳鼻咽喉科
院長 辻田 哲朗

手前味噌

最近、何を思ったのか自家製味噌を作ってみました。作ったといってもまだ仕込んだばかりなので、食べられるようになるのはまだ数ヶ月先で、どんなのが出来るのかとても楽しみです。

ところで、味噌に麦味噌と米味噌とかがあるのは今まで原料を意味するものとはばかり思っていました。つまり、麦から作るから麦味噌、米から作るから米味噌だと。何十年間も何の疑いも持たずに、毎日味噌汁を頂いていましたが、実際作ってみて、間違いだったとわかり自分の無知さにあきれました。麦や米というのはただ使う麴が違うだけだったんですね。材料はどれも大豆だったんですね。知らなかった。

味噌の作り方はあっけないほど簡単でした。材料は大豆と麴と塩。たったそれだけです。大豆を煮て、潰して、それに麴と塩を加えて樽に仕込んで出来上がるのを待つだけです。あとは麴が時間をかけてゆっくりと仕事をしてくれます。でも実際作って仕込んだ時、こんなのがホントに何ヶ月かしたらちゃんとあの香ばしくておいしい味噌になるのかななんて想像が付きませんでした。麴の力はすごいですね。そして、味噌を最初に発明した先人もすごいです。どんな味噌になるのかな。やっぱりモーツァルトを聞かせたらもっとおいしくなるのかな。春になるのが待ち遠しいです。また今回は自分で作るわけですから、材料には吟味しました。大豆は北海道産、麴は玄米麴、そして塩は伯方の天塩です。

玄米と言えば、もう 10 年ほどになります。玄米飯をずっと食べています。この玄米を食べだしてから、すこぶる体調が良くなりました。まず、毎朝決まって太っというウンコが出ます。もう気分爽快です。それに時間をかけて噛まんといけませんから、ご飯の量もそれ程食べられませんし、時間をかけてゆっくり食事が出来るようになりました。そのため、たまに外食などで白米を食べるとなんか噛み応えがなく、まるでお菓子を食べてる気がするようになりました。白米はおいしいんだけどなんか物足りません。それと、何日か外食が続いて玄米を食べれなくなると、とたんに体調が悪くなってしまいます。やっぱりボクには玄米飯と納豆が一番のご馳走です。

味噌に戻ります。手前味噌とはよく言ったもので、やっぱり自分とこで作った味噌が一番です。ところでこの味噌の作り方ですが、インターネットで調べると、懇切丁寧に教えてくれました。作り方は簡単ですが、使う大豆や塩の量がとても細かい。大豆 500g に対して塩はなんと 312g です。細かいですね。だから量りで細心の注意を払ってきちんと量りました。そういえば前に漬物を作ったときは白菜が塩辛くて食べれなかったことがありました。この塩加減が大事ですね。味噌がちゃんとできたら今度は豆腐を作ってみようかと思っています。自家製豆腐が入った手前味噌の味噌汁。それと玄米ご飯と納豆。これがボクの究極の朝飯です。



いえはら歯科



いえはら歯科
院長 家原 猛

07 新春の御挨拶

2007 年 謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

旧年中はいろいろなところで多くの方々に支えていただきました。

心より感謝申し上げます。そして、本年も変わらぬご交誼を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

さて、05 年夏の衆議院選挙で小泉自民党大勝、政治の流れが大きく変わり、それを踏襲する形で 06 年安倍晋三政権へとバトンは渡されました。06 年 4 月の医療・介護の改定では、提供側には極めて厳しい改定となりました。患者の視点での医療ということで、文書による情報提供であったり、治療の内容がわかりやすい領収書の発行の義務化など、一方的に負担を強いています。又、高齢の患者さんにとっては 4 月、(8 月、) 10 月と段階的に負担が重くなりました。税制面でも所得減税廃止など、負担ばかりが重くなる一方です。

少子高齢社会だから、ということでしょうか？

予算の総額は本当にそんなにいるのでしょうか？

予算の配分はこのままでいいのでしょうか？

(いつしか生活者の視点がなござりにされて、寂しい限りです。)

安心して任せていいのですか？(タウンミーティングの件は残念でしたね。)

国だけの問題じゃない気もします。

市場化テストとか、アウトソーシングとかいって役所の仕事を民間委託して、派遣社員がやっている。個人の情報管理は？……その頃担当者は何してるの？地方への権限委譲とかで市町村はとても忙しくされていると伺っています。踏ん張りどころです。頑張ってください。

少し逸脱しました。でも、もう少し続けます。

防衛庁が防衛省になりました。自衛隊の任務の中に国際貢献がはっきりと明記されました。少し危険な臭いがします。世界の常識からすれば普通なのかもしれません。世界遺産とも言うべき、日本国憲法の第 9 条のここは堅持しなくてははいけません。お国のためでなく、人類のため、世界のために貢献する集団であってほしい。もっと言えば、環境や気象条件に恵まれない地域の人々の自治・独立・社会を支援する自衛隊であってほしいと願うばかりです。ミサイル防衛システムなど本当にいるのですか？……逸脱しすぎました。

決して、このような場で時の政府の批判をしようとは思いません。

心配なのです。「美しい国・日本」が。

できうれば、重い槍の国でなく、「思いやりの国・日本」となるよう。

最後になりましたが、皆様方のご健勝とご発展を祈念しつつ、新年の御挨拶と致します。

 中 下 医 院 

中下医院
院長 中下 英之助

性感染症患者における 診療所の敷居

高齢化社会となり、社会生活上のバリアフリーが進行しております。医療機関でも玄関の段差を平坦化、車椅子トイレ、院内表示など受診に際しての生活空間における物理的バリアの解消が進められてきました。しかし診療に際しては病気に特有の意識の壁もまた存在します。

近年若年者を中心に性感染症が広がりを見せております。性感染症の蔓延を防ぐために、症候性および無症候性感染者の早期発見・早期治療が必要になります。しかしながら性のトラブルとしての性感染症は家族や近親者に対しても内密にしておきたい気持ちが強く働き、受診・治療に際して配慮が必要な部分があります。

過去 4 年間に於いて、交際相手の女性が婦人科にて性感染症と診断され、感染が心配で検査希望のため当院で受診した男性患者について検討しました。感染患者では、半数以上に自覚症状を有しており、尿道にかゆみ、不快感など軽微な症状が多くありました。しかし感染患者に病識がなかったり、感染を疑いましたが、症状が軽微のため受診せず、交際相手に受診をうながされ来院しております。また精液中に血液の混入を認めたり、陰嚢内容の腫れや痛みなどの症状が起こり、血精液症や精巣上体炎を発症して来院の患者さんも少なからずみられます。このように感染症患者の中でかなりの人が受診を躊躇している様子が伺われます。

若年者に対する相談相手や検査・治療への希望についての本邦におけるアンケートの結果では、困ったときの相談相手として友人 (80%)、パートナー (60%)、医療機関 (40%) への順になっており、携帯やインターネットなどの IT 利用も見られております。検査・治療などの要望ではプライバシーを守ってほしい、気軽に受診できる医療機関を知りたい、具体的な検査や治療法やその費用も知りたい。親の保険証使わないで済ませたいなどの、切実な現状が見て取れます。

気軽に受診できる医療機関について、受診にいたる経過や性行動について、お説教や非難、後遺症の強調などのパターンリズム (父権主義) による診療態度は、いろいろな事情はあるにせよ、医療機関を受診した患者には控えるべきであり、速やかかつ適切な検査から治療のほかに合併症や予防、パートナーの治療にわたり懇切丁寧な対応がなされることが望まれます。そして説教や叱咤されるべきは、治療をしないで性行為を続けて感染症を拡大している感染者たちに対してです。

若年者の場合、親や家族に知られたくないので受診を控えたり、親の保険証を使いにくいため自費での診療希望があります。この場合公費負担なども提案も考えられていますが、ポピュリスト (大衆迎合主義) のそしりを免れません。性感染症は性のトラブルであり、治療やパートナーを含めた再発防止に対する自己責任や社会的義務が生じます。また自費治療を希望する若年の感染者では、しばしば医療費負担の問題もあり治療の中断がみられます。当院では親の扶養家族である未成年者には、両親、家族とよく相談した上で自費による治療を避けて、治療の中断などに陥らないように指導を心がけています。

性感染症の治療に際して医療機関は、過度の父権的診療態度、患者迎合主義的な配慮は避けて、患者との信頼関係を構築して、適切な医療や感染防止法を行う必要があります。診療所の敷居の高さに対しての医療機関が果たす役割は大きいものがあります。

♪ 第11回 鳥取大学定期演奏会 ♪

平成 18 年 11 月 25 日、鳥取大学室内管弦楽団による定期演奏会が開催されました。ゆうとぴあが開所したときから続いており、今年で 11 回目の演奏会になります。

バイオリン、トランペット、フルートなどから奏でられる音楽は格別でした。昔懐かしい童謡からクラシックまでいろいろな曲を演奏していただき、音楽に包まれた楽しい一時を、利用者の皆さまと過ごすことができました♪

来年の演奏会が今から楽しみです！



鳥取大学室内管弦楽団の皆さま



きれいな音色だねえ♪



第 12 回米子ホスピタウン真誠会文化展 (河崎)



河崎小学校の皆さん♪



テープカットです!!

平成 18 年 10 月 28 日から 11 月 4 日まで、米子ホスピタウン(河崎)のゆうとぴあ広場にて、恒例の米子ホスピタウン真誠会文化展が開催されました。ご利用者、ご入所者の方々、地域の方々、ご家族、職員などが作られた作品がたくさん展示され、ゆうとぴあ広場がとてもにぎやかになりました。オープニングセレモニーでは、河崎小学校の皆さんが、お歌を披露して下さい、セレモニーに参加した皆さんの手拍子とともにとても盛り上がりました♪



第 5 回弓浜ホスピタウンふれあい文化祭 (大崎)

平成 18 年 11 月 16 日から 11 月 24 日まで、弓浜ホスピタウン(大崎)の 2000 年ホールにて、弓浜ホスピタウンふれあい文化祭が開催されました。今年で 5 回目になります。オープニングセレモニーで演奏を披露してくれた崎津小学校 4 年生の生徒さんと、ご利用者、ご入所者の方々と一緒に手をつなぎ展示物をご覧いただきました。かわいい小さな手にひかれ、皆さんから笑顔がこぼれていました(〜)



崎津小学校の皆さん♪



みんな上手だねえ～



たくさんの作品ありがとうございました☆

小田理事長 講演会報告

小田 貢理事長は、平成18年は、以下のような講演会を各地で行いました。



平成 18 年 理事長講演会一覧

日時	講演内容	依頼先	講演場所	備考
1月21日(土)	中山書店 CNE セミナー 特別ゲスト 「日野原先生紹介：日野原重明先生 リビング・ヒストリー」	中山書店	米子コンベンションセンター 多目的ホール (米子市末広町 294 Tel. 36-8111)	参加人数：600 名
4月9日(日)	がいなフォーラム 午前の部：シンポジウム 「少子高齢化を支える地域福祉の現状と 将来」	主催：米子助け愛がいなネット 共催：「新老人の会」鳥取支部	米子コンベンションセンター 多目的ホール (米子市末広町 294 Tel. 36-8111)	参加人数：1800 名
5月11日(木)	米子市連合婦人会総会 「これからの少子高齢社会を力強く生きる」	米子市連合婦人会	米子市男女共同参画センター 米子 SATY4 階 (米子市末広町 311 Tel. 22-2121)	参加人数：50 名
8月3日(木)	産業医講演会「食中毒について」	大山/ハム		参加人数：100 名
8月26日(土)	米子市民生児童委員協議会 第3ブロック研修会 「助け合いでつくる まちづくり」	福生東民生児童委員協議会	ホールサムイン 皆生 (米子市皆生新田 3-297 Tel. 23-2880)	参加人数：約 50 名 (民生児童委員)
10月30日(月)	平成 18 年度「米子人生大学」 「地域で支え合う少子高齢社会」	米子市教育委員会 生涯学習課	米子市文化ホール メインホール	対象：成人市民 (主として 50～80 歳代) 参加人数：約 470 名
11月9日(木)	富益地区社会福祉協議会評議員研修会 「地域でつくるまちづくり」	富益社会福祉協議会	ベルライト米子	対象：富益地区社会 福祉協議会評議員
11月21日(火)	第3回 健康づくり教室 「だれでもできる ほけ防止」	崎津公民館	崎津公民館	対象：崎津地区住民 参加人数：約 50 名
12月3日(日)	第2回弓浜助け合いネットワーク 「認知症になっても住めるまちづくり」	米子市美保・弓ヶ浜地域包括 支援センター	弓浜ホスピタウン 2000 年ホール (米子市大崎 1511-1)	対象：弓ヶ浜及び 美保地区住民 参加人数：203 名

これらの講演の共通点は、今まで小田理事長の講演の主目的であった「個人の生きかた」から「少子高齢化社会の作り方」という社会づくりのテーマへと変遷してきたことです。これは社会の要請でもあり、小田理事長は今後も出来る限りこれからの少子高齢化社会に対応できる新しい社会づくりに対して少しでもお役に立ちたいと言っております。

山陰認知症ケア研究会での発表

平成 18 年度の山陰認知症ケア研究会は 6 月と 12 月の二回行われ、真誠会からそれぞれ発表を行いました。

平成 18 年 6 月 10 日(土)に行われた、第 10 回山陰認知症ケア研究会では以下の演題で発表を行いました。

- ・「認知症ケアに関する職員教育の実際」
- ・「センター方式導入によるケアマネジメントの効果
～現場職員の参画と意識変化～」

また、12月に開催された第 11 回山陰認知症ケア研究会では以下の演題で発表を行いました。

- ・「外部評価を受審して～青松庵と地域との交流の推進～」
- ・「認知症高齢者への音楽を中心とした通所ケアの効果
～ QOL が改善された在宅生活～」
- ・「認知症対応型デイサービスのケアの実際
～一般型デイサービスとの比較から～」

の 3 題の発表を行いました。

真誠会では今後も継続的に常に 3 題、少なくとも 2 題の研究発表ができるようにしたいと思っております。

充実した真誠会の研修体制 年間 59 単位の生涯学習会

平成 18 年度の真誠会での生涯学習は 59 単位(一単位は平均 1 時間)ありました。

これは毎月平均 5 時間の全体勉強会があったことを意味しています。

この全体生涯学習には各部署別の勉強時間は入っていないので、実際にはもっと多い学習が行われていることになります。今後も真誠会は生涯教育に力点をおき、知識、技術そして人間性の豊かなスタッフ育成に力を入れていきたいと思っております。

【平成 18 年度施設内教育計画】

目的:医療、保健、福祉の連携の中で社会の要請に
応える専門職業人の育成を図る

重点目標:

- ①人間としての尊厳を守り、愛と思いやりのケアの出来る人材育成
- ②認知症を理解し個別ケアが展開出来る
- ③リハビリテーションの意義を理解し自立支援に向けてのケアが展開出来る
- ④栄養管理と口腔ケアの知識を深め実践出来る



グループホーム青松庵

外部評価で高い評価を受けました



グループホームは小人数で家庭的な支援を行える事が特徴であり、反面閉ざされた環境のため運営上、透明性に欠けるとの指摘もあります。このため法律に基づき年に一度、外部機関からの調査員を受入れ、その結果をインターネット上で公開するシステムとなっています。

これらの評価項目には運営理念の明確化や提供するケアサービスの内容、家庭や地域との連携等、自己評価 142 項目・内外評価 71 の調査項目があります。

グループホーム青松庵では、平成 17 年度に第一回の外部評価を受審において、高い評価を受けたのですが、地域との連携という項目で満点が取れませんでした。

平成 18 年 9 月グループホーム青松庵は第二回目の外部評価を受審しました。

一年間いろいろ努力をして今回の受審となったのですが、今回は審査の項目すべてで合格点を取ることが出来ました。合格点を取ることが出来なかったのはもともと全施設に対して今回外部評価の対象となっていない項目であり、事実上は今回の外

部評価では満点を取ることが出来たのです。今後さらに充実してこの満点の評価を継続的にもらえるように努力して行きたいと思います。

今回、二回目としての受審においてこの項目を改善すべく努力をしました。

1. 地域と交流を推進して、利用者との交流の輪が広がり、地域の方から老人会及びいきいきサロン等の参加依頼等の情報交換も多くなった。
2. このことにより、平成 18 年度外部評価を受審した結果、前年度の要改善事項についても、ほぼ満点に近い評価を得て満足する結果となった。

私たちはそこに住まいする利用者が心豊かに穏やかに、地域の方々と馴染みの関係をさらに深めて、その方の有する能力に応じた日常の生活が出来得るように支援して、地域の中で安心して暮らせるまちづくりへの取組みを継続していきたいとおもっています。

介護サービス情報の公表に関する調査

平成 18 年 12 月、介護サービス情報の公表に関する外部調査がありました。調査委託機関として鳥取県社会福祉協議会の方が来られ、真誠会グループの 9 つの事業所が審査を受けました。

結果として、平均的には 95% の項目で合格点を得ることが出来ました。平成 18 年末の時点ではまだ他の施設の状況がわからないので

断定的には言えませんが、9 つの事業所で 95% の合格点は鳥取県でも一番高いレベルのものという印象を持っております。その他真誠会の残りの事業所でも高い評価をもらえるように万全を期したいと思います。

ホームページで結果が公開されるのを楽しみにしたいと思います。



介護サービス情報の公表とは

平成 18 年 4 月の介護保険法の改正で、利用者等が事業所の情報を比較検討し適切に介護サービスを選択することが可能になるよう、全ての介護サービス事業所に介護サービスの内容や運営状況に関する情報を公表することが義務付けられました。

この制度において、事業所が自らの責任で情報を公表することにより、利用者等がその情報を活用しながら介護サービス事業所を選択することが可能となる一方、事業所も自らのサービス内容を見直しサービスの質を高めることが期待されます。

介護サービス情報の公表の仕組み

- ①介護サービス事業者が鳥取県に介護サービス情報(「基本情報」と「調査情報」)を報告します。
- ②報告された介護サービス情報について、鳥取県知事が指定する指定調査機関(鳥取県社会福祉協議会他)が事実確認のための調査実施します。
- ③介護サービス情報に関する調査結果を、鳥取県が公表します。

日野原先生とのツーショット年賀状を振り返って

2003

米子空港にて

■ あけましておめでとうございます ■



平成 15 年は、真誠会誕生 15 年目でもあります。
本年は、医療福祉複合体真誠会がより成熟し、充実したサービスを提供する年にしたいと思います。
皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。
平成十五年 元旦

2004

弓浜ホスピタウンにて

迎春



愛すること
耐えること
創めること

— 日野原重明先生 —

本年もどうぞよろしくお願いたします。
平成 16 年 元旦

2005

ホテルオークラ神戸にて

本年は真誠会グループ全体が明るく、力強く、そして高い目標に向かつて邁進し、今年を真誠会にとって革新的な進歩の年、力強い生まれ変わりの年にしたいと思います。

明るく、力強く、高く



新春のお慶びを申し上げます

2006

米子市公会堂にて

新春のお慶びを申し上げます



心は少年、新老人

本年は、更なる地域医療福祉と、新老人の会の発展に全力を挙げ、同時にボランティアのネットワークの構築を実現したいと思います。

2007

平安会館(京都)にて

Happy New Year 2007



今年も皆様と一緒にたくさんのことを日野原先生から学びたいと思います。そして、「オレリワシのナレバワシ」を目指します。
本年も宜しくお願致します。
小田 貞